滋賀短期大学 学報

2018. 12. 1

No. 84

CONTENTS

[理事長メッセージ]
学園創立100周年を迎えて

[学長メッセージ]
滋賀短創立50周年に向けて

[特集1 全国私立短期大学体育大会]

[特集2]
純美禮祭、美しい日本語コンクール、
保健室だより　ほか

[学外実習報告]

[平成30年度公開講座]
淡海文化講座、こども講座、すみれキャリア講座、
滋賀医科大学との共催公開講座

[学内情報]
平成29年度決算・財務状況報告、
短期大学行事等開催状況、
竜王まるごと「スキヤキ」プロジェクト、人事異動 ほか

滋賀短期大学

〒520-0803 大津市竜が丘24-4　滋賀短期大学　広報・図書委員会
電話(077)524-3605
ホームページアドレス　http://www.sumire.ac.jp/tandai/

理事長メッセージ
Message

学園創立100周年を迎えて

学校法人純美禮学園理事長　松村　文夫

本学園は、大正７年（1918年）創設者中野冨美先生が、私塾松村裁縫速進教授所を開設されたのを起源として大津高等裁縫女学校、滋賀高等女子実業学校等を経て戦後新制高等学校に改編、その後昭和４５年（1970年）短期大学（当時滋賀女子短期大学）を開学し、続いて昭和５５年には附属幼稚園を開園、現在これら３つの学校園を擁する学園として発展してまいりました。お蔭様で今年創立１００周年を迎えることが出来ました。これも偏に今日まで学園を支えていただいた多くの関係各位のお蔭であり改めて感謝申し上げます。

また、今日までに本学園を巣立った者は、短期大学では約１万５千名、附属高等学校では約２万７千名、附属幼稚園では２千２百名　併せて約４万４千名に達し、それぞれ各地で活躍されております。

このたび、創立１００周年を迎えたのを契機に学園では次の３つのコンセプト 一つは、「守り伝える建学の精神」これは「心技一如」の建学の精神のもと多くの人材を世に輩出し歩んできた１００年の歴史を再認識し、これからの100年へ向けてより一層地域へ広げる機会とする。二つには、「人と地域との絆に感謝」これは純美禮学園を介して培われた人や地域とのさまざまな絆を未来に向けて丁寧に紡ぎ、学園全体の一体感、地域との一体感を高めていくとともに学園を築きあげてきた人たちや、学園を見守り続けていただいた地域の人たちへの感謝を表す機会とする。三つには、「地域に根差し地域を支える教育研究」　地域の要望を掴んだ取り組みを推進し、本学園のすぐれた教育や研究により地域社会に貢献する。本学園の持っている教育資源を広く地域社会に提供することを方針として記念事業に取り組んでおります。

一方、ハード面においては、附属高等学校の老朽化した校舎の一部建替え工事を進めており年内に完成の運びとなっています。

また、記念史については、すでに刊行されている「純美禮学園７０年史」をリライトし、新たに創立１００年史を編纂中で、今年度中には発刊する予定で進めています。

こうして、１００周年という記念すべき年に在る学園の学生・生徒、教職員一同はこの歴史の重さに思いを馳せ、感謝しつつ「心技一如」の建学の精神のもと一日一日を誠実に歩み続け、さらに社会に貢献できる有為な人材育成に取り組んでまいりますので今後ともよろしくご指導の程お願い申し上げます。

後先になりましたが、この度の１００周年記念事業に際し、多くの皆様から記念寄付にご協力いただきましたこと紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

なお、記念式典は、５月１０日の学園創立記念の佳き日、滋賀県立琵琶湖ホールにおいて、三日月大造滋賀県知事はじめ多くのご来賓ご臨席のもと、学生・生徒、教職員が一同に会し盛大に開催することが出来ました。

学長メッセージ
Message

滋賀短創立50周年に向けて

滋賀短期大学学長　秋山　元秀

この5月に純美禮学園の100周年の祝賀会が開かれました。私たちの学園は大正7年（1918）に開設された松村裁縫速進教授所を母体とするからです。その約50年後、昭和45年（1970）、滋賀女子短期大学が誕生します。設立当初は服飾学科50名、幼児教育学科50名の2学科でスタートしました。初年度こそ、2学科で入学者が74名でしたが、46年度は109名、47年度は130名と徐々に定員を上回り、50年度は331人と定員の3倍を超える入学者がありました。これは主に幼児教育学科を志望する受験生が急増したことによるもので、これに対応して昭和51年からは幼児教育学科120名、服飾学科80名に増員しました。その後昭和62年には秘書科（入学定員100名。現在のビジネスコミュニケーション学科）が新設され、平成13年には服飾学科が生活学科と名称を改めました。滋賀短期大学として男女共学になるのは平成20年からです。こうして私たちは2年後の2020年、滋賀短創立50周年を迎えることになります。

滋賀女子短期大学が創設された昭和45年はどんな年だったでしょうか。3月には「人類の進歩と調和」をスローガンに万国博覧会が大阪の吹田で始まりました。そろそろ高度経済成長期は終わりに近づいていましたが、少し前の昭和39年には東京オリンピックが開かれ、同じころ東海道新幹線や東名高速道路も開通しています。国際的にも昭和43年、日本はGDPで西ドイツを抜いて世界第2位になりました。18歳人口のピークは過ぎていましたが、大学への入学者は増え続けていた時代です。しかし一方で、人口過密からくる過疎の問題や環境問題が深刻化していました。希望にあふれた未来を信じながらも、漠然とした不安の時代がやってくるのでは、という予感もありました。

それから50年、日本社会は大きく変化しました。経済成長は鈍化して安定成長期に入り、いまは低成長の時代といわれています。人口では高齢化が進むとともに18歳人口が減少、いわゆる2018年問題を迎えました。高等教育進学者の中で短大の入学者は、多い時は25万人あったものが、今では6万人と減っています。本学が生まれた時代の短大と４大との入学者比率は1：2.5でしたが、今は1：10になっています。私たちの滋賀短期大学も、近年、定員充足に苦戦しているのが実情です。これから日本の高等教育において短期大学はどのような道をたどればよいのでしょうか。

私は今度の50周年は、滋賀短期大学のこれからを考える非常によいチャンスだと思っています。単に50周年だからお祝いするのではなく、これまでの成果を振り返り、これからどうすれば展望が開けるのかをテーマに、現在在籍する教職員・学生だけではなく、卒業生、その保護者や地域住民、また以前本学で仕事をされた方々、いわば、オール滋賀短で、知恵を出し合う機会にしたいと思います。今からその企画をどうするか考えて提案していきます。どうかご支援ご協力をお願いします。

［特集１］
Feature
1

全国私立短期大学体育大会

平成30年8月6日から9日に、東京都他各地で第53回「全国私立短期大学体育大会が開催され、本学各部が出場しました。各選手とも皆、それぞれに大健闘し、優秀な成績を修めることができました。大会結果は、次の通りです。

◎ソフトテニス部（女子）
■団体　優勝（４連覇）
■個人　優　勝：宗行紗里・徳田玲奈ペア
準優勝：森汐音・大橋華ペア
第三位：内藤恵未里・渡邊千華
第三位：廣瀬優美・南浦美優
ベスト８：田鶴栞：塩見彩文

◎バドミントン部（女子）
■団体　準優勝
■個人　シングルス準優勝　山田愛梨
シングルスベスト８　川井菜々子
ダブルス第三位　首藤優花・東澤ペア
ダブルスベスト８　小田鮎美・大江真由ペア

◎バレーボール部（女子）
■第三位

◎バスケットボール部（女子）
■第三位

ソフトテニス部

主将　幼児教育保育学科　2回生　**徳田　玲奈**

私たちソフトテニス部は、全短優勝を目指し部員一人ひとりが日頃から一生懸命練習に取り組みました。

大会では、団体三連覇しているというプレッシャーと悪天候の中で苦しい試合が続きましたが、団体優勝と個人ベスト４を独占することが出来ました。これは、部員全員が楽しく前向きに毎日取り組んできた練習の成果を発揮し、力を合わせて戦うことができた結果だと思います。

会場には、秋山学長や保護者の方々がお忙しい中応援に来てくださいました。沢山の方々から支えていただいていることに感謝し、これからも次の目標に向かって部員全員で日々練習を頑張っていきます。

バドミントン部

主将　生活学科 製菓マイスターコース 2回生　**首藤　優花**

今回の大会では、私たちバドミントン部は団体戦五連覇を目標に臨みました。しかし、団体戦決勝で、関西１部リーグで活躍している武庫川女子大学にストレートで負けてしまい、目標の五連覇を逃しました。

現在、関西2部リーグに所属する私たちには、やはり1部リーグの壁はまだまだ遠いと実感しました。

優勝は出来ませんでしたが、チーム一丸となり全力で戦った結果なので、悔いはありません。

バレーボール部

主将　生活学科 製菓マイスターコース 2回生　**大辻　香菜**

昨年はあと一歩のところで敗れ、準優勝だったことから今年こそは優勝するという強い気持ちをもって大会に臨みました。結果は、準決勝で武庫川女子大学短期大学部に敗れ第三位という結果でした。悔しい結果となりましたが、今大会の反省を活かして秋季リーグ戦で２部昇格を目指していきたいと思います。

大会には学長や保護者の方々がお忙しい中、応援に来てくださいました。多くの方々の支えに感謝し、これからも日々努力していきたいと思います。

女子バスケットボール部

主将　幼児教育保育学科　**小田　彩華**

8月6日から八王子市の帝京大学の体育館でバスケットボールは開催されました。昨年度はプレーヤー5名とマネージャー1名でベスト8の結果でしたが、今年は6名のプレーヤー（2回生１名と１回生５名）とマネージャー２名で参加しました。

２日間で２試合の予選リーグ（本学は１日目２試合）でしたが、グループ戦では昨年度ベスト４の淑徳大学短期大学部と対戦し勝利しました。2試合目は埼玉純真短期大学と対戦し勝利し、決勝トーナメントに進出することができました。準決勝は昨年度準優勝の九州近畿大学短期大学には勝利することができず、3位の結果でした。

昨年以上の結果を残せましたが、今回の結果に奢ることなく、学園を挙げてご支援していただき、また保護者の方々の応援があり、バスケットボールができることに感謝することを忘れずに、9月からのリーグ戦に向けてまた頑張りたいと思います。

最後になりましたが、大会には学長をはじめ保護者の方々がお忙しい中応援に激励に足を運んでいただき、書面をお借りしてお礼申し上げます。

［特集2］
Feature
2

純美禮祭を終えて

学生自治会 会長　**中村　友美**

今年で49回目になる純美禮祭を11月3日（土）、4日（日）の2日間にわたって開催しました。「楽しかった」「おもしろかった、ありがとう」と、多くの方から声をかけてもらいとても嬉しく思います。今年は自治会役員のみんなで「自分自身楽しみながら周りの人にも楽しんでもらう」ということを目標に純美禮祭の企画・運営を行いました。純美禮祭を終えた今、この目標を達成できたのではないかと思います。

純美禮祭当日は朝早くから、模擬店の準備をしている学生や先生方の姿が見え、気が付くと一般の方々もグランドの方へ足を運んでくださり、野外ステージで開会宣言を行い純美禮祭が開催されました。グランドでは模擬店販売をする学生や、それらをおいしそうに食べてくださるお客さん、楽しそうにステージを見てくださる方々などがおり、とても賑わっていました。1日目の野外ステージでは、マジシャンカイトさんによるマジックショーや、キムコさんと翔子さんによるものまねショー、また、バンド演奏や有志企画での歌唱披露などによりステージが一層盛り上がりました。2日目の野外ステージでは、バルーンパフォーマーキャサリンさんや、バンド演奏、吹奏楽部による演奏、ホリさんなどにステージを盛り上げていただきました。ホリさんによるものまねLIVEでは、小さいお子さんから大人の方まで知っている歌ネタやものまね等をしてくださり、会場は大きな笑いに包まれました。他にも、体育館ではボールプールとトランポリンの設置、学校内では幼児対象のスタンプラリーがあり、小さなお子さんの楽しむ姿や、楽しんでいる姿を見てほほ笑む方がいました。野外ステージだけでなく、体育館や学校内にも笑顔でいっぱいの2日間となりました。

広告掲載に快く応じてくださった企業の皆様、地域の方々、教職員の皆様、学生たち、そして中心となって純美禮祭を盛り上げてくれた純美禮祭実行委員のメンバー等々、たくさんの方々のご協力のおかげで、盛況のうちに純美禮祭の幕を降ろすことができました。本当にありがとうございました。

私たち自治会役員2回生は純美禮祭が最後の大きなイベントで、純美禮が終了したときには、達成感とみなさんに楽しんでいただけた嬉しさでいっぱいでした。しかしその反面寂しさも感じました。ここまで私を支え助けてくれた一人ひとりのメンバーに感謝しています。1回生は、私たちの背中を見ながらいろいろなことを経験し学んだので、来年はさらに盛り上がり楽しい純美禮祭が開催されることを期待しています。来年度も純美禮祭に是非お越しください。

リーダーズトレーニングレポート

学生部長　**原　知子**

6月30日土曜日（9時30分～14時30分）、滋賀大学の小野善生先生のプログラム進行で、代議員・課外活動の代表・希望者を対象としてリーダーズトレーニングを実施しました。

「人の意識を前向きに変えるにはどうすればいいか?」という命題で、最後には学生たち自身にディスカッションが課せられるが、そのためにまず、星野佳路氏の「信じる力が人を動かす」と題した旅館再生の事例を提示し、さらには事例を考える上でのポイントを示し、グループディスカッションに導かれました。事例のビデオで、社員のモチベーションを向上させる取り組みや自主性・能動性を引き出すための工夫などを考えながら見たうえでディスカッションに入ったためか、能動的かつ活発に意見が出て、グループごとの発表もオリジナルな視点を取り入れてきごたえのある発表がなされました。

今年度から1日のみのプログラムに変更しましたが、後日の講義でディスカッションを取り入れた際に、リートレ参加学生がリードしてスムーズに進行でき、成果を実感しました。

平成30年度　美しい日本語コンクール

テーマ「私の好きな滋賀の風景」

本学学生を対象とした“美しい日本語コンクール”が今年も開催されました。
今年度は自由課題部門と「私の好きな滋賀の風景」部門で募集をしたところ、素晴らしい作品が多く集まりました。

審査員　久米　央也（広報・図書副委員長）
浜崎　由紀（幼児教育保育学科　講師）
伊澤　亮介（ビジネスコミュニケーション学科　特任助教）

◎入賞者

■最優秀賞　**森島　千穂（幼児教育保育学科1回生）「私と坂道」**

■優秀賞　**「私の好きな滋賀の風景」部門**
駒村　瑞樹（生活学科1回生）……「滋賀の車窓から」
内藤　幸子（生活学科1回生）……「滋賀県民の母」

「自由課題」部門
吉田紗千佳（幼児教育保育学科1回生）……「生きていること」
松本　悠里（幼児教育保育学科1回生）……「周りの人から学んだこと」

■努力賞　田中　あみ（幼児教育保育学科1回生）……「私の好きな滋賀県の風景」
三坪　麻奈（幼児教育保育学科1回生）……「変わらない風景」
高田　杏香（幼児教育保育学科1回生）……「今がんばっていること」

保健室だより

学生支援課（保健室）　**佐野　淳**

不安な気持ちになったときは～巻き込まれずに付き合うコツ～

皆さんは、何か心配事があった時に、「考えても仕方ない、考えないようにしよう」と思っても、不安が取り払えなくてぐるぐると考えてしまう、なんていう経験は、ありませんか?

こうした不安とうまく付き合い、巻き込まれるのを防ぐには、無理になくそうとするのではなく、自分のしたいことの妨げにならない程度に距離を置いてみるのも良いかと思います。悪いことが起きる可能性にばかり目が行き、雪だるま式に不安が膨らんでしまうため、その悪循環から少し離れてみるのも効果があるかと思います。私達が、不安になる時は、だいたい何らかの出来事や相手があります。でも何も思いあたることのない漠然とした不安や、日常生活に支障が出るような場合は、一度専門家に相談することをお勧めします。

しかし不安が、時に役に立つ場面もあります。不安は、自分の願い、葛藤、大事にしている価値観のありかたを教えてくれます。成績について不安を持っている人は、「認められるような人物になりたい」と思っているかもしれません。友達にどう思われているかが気になる人は、「人から信頼されることに重きを置いている」かもしれません。目の前の不安より１段深いところにある気持ちに気づき、自分の望む方向は、何か、どうしたら近づけるかを考えるのも、不安に振り回されにくくなる方法の１つです。人に話すことで、こうした気づきが得られる場合もあります。身近な人でももちろんよいですし、保健室、相談室でお手伝いが出来たらと思っています。いつでも気軽に来室下さい。

学外実習報告

■ 給食経営管理学外実習で学んだこと

生活学科　食健康コース（2回生）　和田　美里

私は8月13日から17日の5日間、日清医療食品株式会社（介護老人保健施設レーク・ホロニー）に給食経営管理学外実習へ行きました。実習では調理場に入らせて頂き、主に調理師さんや栄養士さんが調理して出来上がった料理を盛り付けたり、食べやすい大きさに刻んだりする工程を体験させて頂きました。

提供する食数は昼食と夕食で異なり、施設によっては主食の分量や食器も変わるので覚えなければならないことが多く大変でした。また、通常の利用者さんのメニューと糖尿病や腎臓病等の病状を考慮したメニューの違いを把握しつつ、利用者さんに適した食事の形態を提供する大切さを学びました。作業内容は毎回同じ流れでしたが、日によって少しずつ違い職員の皆さんが何度も声を掛け合い確認する姿をみて仲間とコミュニケーションを取ることの大切さを改めて感じました。

実習中は調理場での作業が多かったのですが、学校では体験できない利用者さん向けの食事形態や施設内の利用者さんの様子を実際に見ることができました。この経験を忘れずに今後様々なことに活かしていきたいと思っています。

■ 医療秘書実習を終えて

ビジネスコミュニケーション学科　医療事務コース（2回生）　堀井　美咲

8月21日から2日間、大津赤十字病院で医療秘書実習を行いました。医事課では、労災の取扱い方法や、人形を使って実際の状況を再現しながらの自賠責の説明、また実際のレセプト用紙を使っての公費の取扱方法、高額レセプトの扱い、返戻を減らす工夫など、具体的で詳しい実務内容を教えていただき、知識を深めることができました。病棟クラーク業務では、救命救急センターのクラークの方につかせていただき、一般病棟だけでなく、救命救急センター・ICUの病棟を見学し、それぞれの病室の広さや構造の違いを見比べることもできました。また、各窓口では、多くの患者様に素早く応じ、不明な点は医師へ確認する場面も見られるなど、院内の連携の大切さと責任の重さを感じました。

2日間と短い期間で、あっという間に終わった実習でしたが、スタッフの皆さまには優しく指導していただきました。積極的に気になったことを質問すると、とても丁寧に説明をしてくださいました。実際の現場で、普段の授業や演習での内容を具体的に体験できたことで、より理解が深まり、とても貴重な時間を過ごすことができました。

医療事務職は現場が円滑に進むための重要な仕事を担います。この実習で、様々な職種の方々や患者様との関わりを目の当たりにし、コミュニケーション力が重要になると改めて感じました。残りの学生生活で少しでも多くの知識や力をつけたいと思います。

■「なりきってあそぶ」おもしろさ

幼児教育保育学科（2回生）　土田　珠嵯

今回の保育実習では、設定保育・1日保育の経験をさせていただきました。その中で特に保育者の難しさを感じました。クラスの担任になるということは、「クラスの子ども達全員を平等に観る」ということであり、実習生とは大きく異なると実感しました。

難しさや大事さを感じた一方で、保育の喜びや楽しさも味わうことができたので、とてもよい経験でした。私は、部分実習で「○○になってかくれんぼをしよう」をやったのですが、遊びを進めることだけ考えていたので、最初子ども達を直に見つけてしまいました。先生が「嘘で“わからんなあ”ってことで、子どもがどうするかを見ながら待つの！そして子どもとのやりとりを楽しむの！」と教えて下さったのでその通りにやってみました。すると、子どもたちが、遊びを仕掛けてくるのが少しずつ分かってきて、私も何だか楽しくなってきました。この経験から、「先ず、保育者がなりきって楽しくあそんで見せること」と、その為の「環境」がとても大切だと学びました。また、「子どもと何をどのように楽しむのか？」を考えておくことと「子どもが何を楽しんでいるのかを観ておく」ことが大事だと気づきました。

子ども達が「楽しかった、もっとしたい」と言ってくれたことがとてもうれしく、子どもたちに楽しんでもらえる保育ができるように頑張ろうと思いました。子ども達に「楽しい」と思ってもらえる保育を目標にこれからもっと沢山のことを学びたいです。10日間という短い期間でしたが、私にとって忘れることのできない実りある10日間でした。

■ 10日間のすなほり

幼児教育保育学科（2回生）　山脇　悠花

今回の実習を通して、保育するためには「環境構成」が欠かせない大切な準備構成だと学びました。

実習期間中、毎朝砂場の「すな」を掘り起こすことから私の保育は始まりました。最初は、ただ、子どもが柔らかい土で遊べるようにと作業をしていました。しかし、子どもと一緒に遊んだり保育者の関わりを見ているうちにいろいろなことに気が付きました。まず、柔らかい土で子どもが何を感じるかが大切だということです。柔らかい土だから、そのフカフカさや、水と合せた時のグチュグチュさがあります。子どもは楽しそうに裸足でその感触を楽しんでいました。けれど、遊びやすいとか感触の楽しさだけではなく、感触を通して自然を感じるという意味があるということも分かりました。このほかに、子どもが登園するまでに準備をしておくことで、子どもに活動への期待を持たせ、興味や関心を引き出すことができるということにも気づきました。土を掘り起こし、新しいおもちゃを置いておくだけで、子どもは登園すると「きょうはすなあそびだ」「あの新しいおもちゃであそびたい」と伝えてくれたからです。

ただ準備をするだけではなく、子どもの何を育てたいか何を感じてほしいのかまで考えて構成することが重要だと学びました。

私は、10日間砂場のすなをほりながら、子どもの姿や保育から学び、何よりその楽しさを感じました。

平成30年度公開講座

淡海文化講座

広報・図書委員　特任助手　池之内　愛子

今年度の淡海文化講座は、2回に分けて開催されました。

10月13日（土）に開催された淡海文化講座では、本学3学科の教員がそれぞれの専門分野に関する身近な題材を取り上げ講演しました。生活学科から原知子教授による「健康長寿のための食生活～バランスの良い食事とは～」、ビジネスコミュニケーション学科から小山内幸治教授による「滋賀県人の金融リテラシー」についての講演では皆様熱心に耳を傾けておられました。幼児教育保育学科から北尾岳夫教授による「運動の基本“歩行”～ノルディック・ウォーキングのすすめ～」では、体育館で実際にストックを持った歩行を楽しく体験されていました。

10月27日（土）の淡海文化講座では、「クラシック音楽の楽しみ～木管五重奏の響き～」をテーマに、日本センチュリー交響楽団ファゴット奏者である宮本謙二氏をはじめ、北村沙希氏（フルート）、宮本克江氏（オーボエ）、延原弘明氏（クラリネット）、岡田喜美子氏（ホルン）の5名をお招きしました。ハイドンの名曲「ディヴェルティメント　変ロ長調」等を演奏していただき、個々の楽器の特性を活かしながら奏でられる木管五重奏の優雅な音色は、会場全体を包み込むようでした。楽器紹介を含めたクイズでは、それぞれの楽器の発祥や構造などを初心者にも分かりやすく解説していただき、その魅力に触れることができました。

今後も、地域の皆様にご満足いただけるような講座を開催していきたいと思います。

「こども講座」を開催しました！

広報・図書委員　教授　深尾　秀一

滋賀短期大学の公開講座「こども講座」は、夏休み中に楽しく学び、体験してもらえるように毎年8月に開催しています。今年度は「こどもフラワーアレンジ教室」、小学校1・2年生対象の「こども書道教室～硬筆の練習～」、小学校3～6年生対象の（毛筆）「こども書道教室～夏休みの課題を書こう～」、「こども陶芸教室」と「こどもラボラトリー」の5講座を開催いたしました。

「こども陶芸教室」では素焼きのお皿とコップの絵付けに挑戦して、一人一人趣向を凝らしたデザインを釉薬絵の具で色付けしました。

まず、子どもたちは、思い思いのデザインを紙に考えて下絵を描きました。その後、その下絵を基に長養窯の陶工深田先生から、どのように絵付けをしていくか優しく教えていただきました。お皿やコップに絵を描く難しさは子どもたちにとって初めてのチャレンジだったかもしれませんが、真剣に絵を描くことを楽しんでいました。作品が出来上がった時には、絵を描いた時とは違う焼き物の色と艶に子どもたちは表情を明るくしていました。自分で作ったお皿とコップはきっと一生の宝物となるでしょう。

毎年、これらの『こども講座』は人気で、募集後すぐに定員に達し多くの小学生に参加していただいています。今後も子どもたちが普段できないようなことを、滋賀短期大学で体験してもらえれる場ができればと思います。

すみれキャリア講座

広報・図書委員　准教授　久米　央也

今年度のすみれキャリア講座は「銅板画教室」「楽しく作るパンの時間（その18～その21）「楽しく学ぶベトナム語」「スウェーデンハンドセラピー」の7講座を開講しました。

毎年大変好評の本学金丸特任教授による「楽しく作るパンの時間」では、パン作りの基本からヨーロッパ伝統のパン作りまでを4回に分けて開講し、多くの方に参加していただきました。ライ麦を使ったライブレッドやヨーロッパの発酵菓子、伝統的なウィーンのパンなどを作り試食もしました。

今年5回目となった、本学の前川名誉教授による「銅版画教室」では、基本的なドライポイントやエッジングの技法を学び、素晴らしい作品を受講者の皆さんの手で完成することができました。

一昨年度から開講しています「スウェーデンハンドセラピー」では、背中に触れるヒーリング、をテーマに服の上からおこなう背中の施術を体験し、大変好評でした。

また、本年度初めて「楽しく学ぶベトナム語」を開講し、熱心に興味を持って参加していただきました。日本との関係や親しみやすい話題を取り上げてベトナムを身近に感じていただきました。

本学のすみれキャリア講座は、これからも地域の皆様の生涯学習の場として活用いただけますように、皆様のご意見を参考にしながら楽しい企画を考えていきたいと思っています。

滋賀医科大学との共催公開講座

広報・図書委員　特任教授　堀池　喜八郎

平成30年度の滋賀短期大学と滋賀医科大学との共催公開講座を7月14日（土）に本学で開催しました。今回のテーマは「認知症と栄養」です。久米央也准教授の司会のもと、地域連携教育研究センター長・深尾秀一副学長と滋賀医科大学・小笠原副学長の挨拶に始まり、2つの講演が行われ、秋山元秀学長の謝辞で午前の講演の部を終えました。引きつづき希望者による調理実習を午後実施しました。

講演は、金一暁（きむひょう）講師（滋賀医大・神経内科）による「認知症を基礎から学ぶ」と、髙岡あずさ管理栄養士（医大病院･栄養治療部）による「認知症予防を食事から考える」です。金氏は、正常な物忘れ（健忘）と病的な物忘れの区別、認知症は病名ではなく状態であり認知機能の低下を来す疾患はたくさんあること、治療可能な認知症もあることなどについて話された。髙岡氏は認知症予防について、ビタミン・カレー・魚・食事パターンの4つの観点から解説され、病気を予防し健康に過ごすためには、結局様々な食品をバランスよく食べることが、認知症に限らず大切であることを強調された。

調理実習のテーマは「地中海＋和で認知症予防に挑戦！～魚を中心にバランスが基本」です。原知子教授（生活学科）や仲川満弓管理栄養士（医大病院）の指導のもと、生活学科の教員と学生が一丸となって前日からの準備・当日の補助をされ、参加者の皆さんは楽しく真剣に実習をされました。

認知症への関心は非常に高く、例年になく多数（講演の部で約130名）の参加があり、大盛況でした。

平成30年7月1日　法人本部

学校法人純美禮学園の平成29年度決算・財務状況報告について

学校法人純美禮学園の平成29年度決算は、公認会計士の監査、学園監事の監査、理事会・評議員会の承認を経て、確定いたしましたので報告いたします。

事業活動収支計算書は、当該会計年度の各事業活動における収支の内容及び均衡の状態を明らかにし、貸借対照表は、本学園の年度末の資産状況を明らかにするものであります。

事業活動収支計算書

平成29年4月1日 から 平成30年3月31日まで　（単位千円）

		科目	決算
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,111,554
		手数料	36,623
		寄附金	22,953
		経常費等補助金	409,039
		付随事業収入	6,409
		雑収入	52,532
		教育活動収入計	1,639,110
	事業活動支出の部	科目	決算
		人件費	1,068,394
		内：退職給与引当	7,094
		教育研究経費	608,962
		内：減価償却	117,354
		管理経費	101,736
		内：減価償却	3,749
		徴収不能額等	255
		教育活動支出計	1,779,347
		教育活動収支差額	△ 140,237
教育活動外収支	事業活動収入の部	科目	決算
		受取利息・配当金	28,395
		その他の教育活動外収入	0
		教育活動外収入計	28,395
	事業活動支出の部	科目	決算
		借入金等利息	1,151
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	1,151
		教育活動外収支差額	27,244
		経常収支差額	△ 112,993
特別収支	収入の部	科目	決算
		資産売却差額	71,681
		その他の特別収入	35,287
		特別収入計	106,968
	支出の部	科目	決算
		資産処分差額	42,063
		その他の特別支出	16,300
		特別支出計	58,363
		特別収支差額	48,605
〔予備費〕			
基本金組入前当年度収支差額			△ 64,388
基本金組入額合計			△ 230,746
当年度収支差額			△ 295,134
前年度繰越収支差額			△ 1,050,216
基本金取崩額			3,814
翌年度繰越収支差額			△ 1,341,536

（参考）

事業活動収入計	1,774,473
事業活動支出計	1,838,861

貸借対照表

平成30年3月31日　（単位千円）

	科目	平成29年度末
資産の部	固定資産	(4,621,754)
	有形固定資産	3,016,227
	土地	369,348
	建物	1,864,435
	構築物	176,114
	教育研究用機器備品	299,991
	管理用機器備品	21,465
	図書	281,557
	車両	3,317
	特定資産	1,604,780
	第3号基本金引当特定資産	368,383
	退職給与引当特定資産	115,073
	減価償却引当特定資産	1,086,576
	住宅貸付引当特定資産	34,748
	その他の固定資産	747
	電話加入権	647
	保証金	100
	流動資産	(675,219)
	現金預金	570,981
	未収入金	92,623
	貯蔵品	159
	前払金	11,456
	資産の部合計	5,296,973
負債の部	固定負債	(310,448)
	長期借入金	27,740
	退職給与引当金	282,708
	流動負債	(314,871)
	短期借入金	35,530
	未払金	22,385
	前受金	235,377
	預り金	21,579
	負債の部合計	625,319
純資産の部	基本金	(6,013,190)
	第１号基本金	5,529,807
	第３号基本金	368,383
	第４号基本金	115,000
	繰越収支差額	(△ 1,341,536)
	翌年度繰越収支差額	△ 1,341,536
	純資産の部合計	4,671,654
負債及び純資産の部合計		5,296,973

短期大学行事等開催状況（平成30年6月～平成30年11月）

（総務課に届出済（届出分）の一部を掲載しています。：短大事務局）

6月

2日（土） 教育懇談会、後援会総会
5日（火） 給食経営計画実習食事提供
7日（木） 自己点検・評価委員会、教学マネジメント部会、教授会、学内研究会（SD関連）すみれがーでん
9日（土） 図書館連携講座（浜大津）
10日（日） 保育士等キャリアアップ研修会
11日（月） 研究倫理審査委員会
12日（火） 高校教員対象入学試験説明会（草津会場）、給食経営計画実習食事提供
13日（水） 体育大会（県立体育館）
14日（木） 高校教員対象入学試験説明会（本学）、教務委員会、学生支援委員会、学生募集委員会、広報・図書委員会
15日（金） 高校教員対象入学試験説明会（彦根会場）
17日（日） オープンキャンパス
21日（木） 高校教員対象入学試験説明会（本学）、教学マネジメント部会、企画委員会、すみれがーでん
24日（日） オープンキャンパス
26日（火） 企画調整会議、給食経営計画実習食事提供
28日（木） 科会、附属高校実践講座
29日（金） 地域移動講座（長浜）、日本医師会認定運営会議、研究ブランディング作業部会
30日（土） 平野学区連携教育講座、リーダーズ・トレーニングⅠ

7月

2日（月） 研究ブランディング作業部会
5日（木） 教授会、教学マネジメント部会、学内研究会、人事委員会、すみれがーでん
8日（土） 保育士等キャリアアップ研修会
12日（木） 附属高校実践講座、教務委員会、学生支援委員会、学生募集委員会、広報・図書委員会
13日（金） 学園教学監査
14日（土） 滋賀医科大学との共催公開講座
15日（日） 家庭的保育推進事業基礎研修
16日（月） （祝日）月曜日授業
19日（木） 教学マネジメント部会、企画委員会、すみれがーでん
21日（土） オープンキャンパス
22日（日） オープンキャンパス
24日（火） 企画調整会議
26日（木） 科会（幼教・ビジ）
29日（日） 家庭的保育推進事業基礎研修
30日（月） 前期定期試験（8月3日（金）まで）、地域移動講座（高島）
31日（火） 科会（生活）

8月

1日（水） つながり贈呈式
2日（木） 教授会、施設整備委員会、教学マネジメント部会、人権委員会
4日（土） AO入試事前面談（Ⅰ期）、図書館連携講座（和邇）
5日（日） AO入試事前面談（Ⅰ期）
6日（月） 夏季休業（9月21日（金）まで）
7日（火） 入学試験委員会
8日（水） こども講座（陶芸・書道（硬筆・毛筆）・フラワーアレンジ）、すみれキャリア講座（楽しく学ぶベトナム語・スウェーデンハンドセラピー）
10日（金） 幼稚園教育実習連絡協議会、すみれキャリア講座（銅版画）
18日（土） 保育士等キャリアアップ研修会
19日（日） オープンキャンパス
20日（月） 滋賀県高等学校進学部会
21日（火） 滋賀県教育委員会大学連続講座、竜王道の駅アグリパーク竜王との連携調印式、こども講座（陶芸）
22日（水） こども講座（書道（硬筆・毛筆）、ラボラトリー）、すみれキャリア講座（銅版画）
23日（木） 職員研修、学内研究会（SD関連）、企画委員会、教育マネジメント部会
24日（金） AO入試事前面談（Ⅱ期）、すみれキャリア講座（銅版画）
26日（日） 家庭的保育推進事業基礎研修
28日（火） 企画調整会議、入学試験委員会、科会（生活）、すみれキャリア講座（パン）
30日（木） 学内研究会（FD関連）、科会（幼教）、すみれキャリア講座（パン）、すみれがーでん
31日（金） すみれキャリア講座（銅版画）

9月

1日（土） 辞令交付式、家庭的保育推進事業基礎研修、図書館連携講座（和邇）、すみれキャリア講座（パン（その20））
2日（日） 同窓会総会、ホームカミングデー（生活、ビジ）、保育士キャリアアップ研修会
6日（木） 教授会、教学マネジメント部会、学内研究会（FD関連）
7日（金） 理事会、すみれキャリア講座（銅版画）
8日（土） 保育士等キャリアアップ研修会、すみれキャリア講座（銅版画）
9日（日） 保育士等キャリアアップ研修会
10日（月） 保育実習連絡協議会、施設実習連絡協議会
13日（木） 教務委員会、学生支援委員会、学生募集委員会、広報・図書委員会
14日（金） すみれキャリア講座（銅版画）
16日（日） オープンキャンパス
19日（水） Ⅰ・Ⅱ回生教務オリエンテーション、リーダーズ・トレーニングⅡ
20日（木） 前期再試験、教学マネジメント部会、企画委員会、すみれがーでん
21日（金） 前期再試験、中間監査
22日（土） 保育士等キャリアアップ研修会
23日（日） AO入試事前面談（Ⅲ期）
24日（月） 後期授業開始（月曜授業）
25日（火） 企画調整会議、入学試験委員会
27日（木） Ⅰ回生対象人権講演会、科会、附属高校・高大連携調整会議

10月

3日（水） 学園事務連絡会議
4日（木） 教授会、学内研究会（FD関連）
6日（土） 図書館連携講座（堅田）、保育士等キャリアアップ研修会
8日（月） （祝日）月曜授業
11日（木） 教務委員会、学生支援委員会、学生募集委員会、広報・図書委員会、附属高校実践講座、すみれがーでん
13日（土） 淡海文化講座、保育士等キャリアアップ研修会
14日（日） AO、指定校推薦、特別推薦、SP推薦（Ⅰ期）入試
16日（火） 大津市役所との就職協定調印式
18日（木） 教学マネジメント部会、企画委員会、防災訓練、附属高校実践講座
23日（火） 入学試験委員会
25日（木） 臨時教授会、学内研究会（SD関連）、人事委員会、科会、すみれがーでん
27日（土） 淡海文化講座
28日（日） 指定校・公募制推薦前期入試
29日（月） 入学試験委員会

11月

1日（木） 教授会、教学マネジメント部会、附属高校実践講座
2日（金） （祝日）月曜日午前授業
3日（土） 純美禮祭
4日（日） 純美禮祭、ホームカミングデー（幼教）
5日（月） 月曜日午後授業
8日（木） 教務委員会、学生支援委員会、学生募集委員会、広報・図書委員会、すみれがーでん
14日（水） 辞令交付式、理事会
15日（金） 企画委員会
17日（土） 図書館連携講座（堅田・浜大津）
22日（木） 中間監査、科会
23日（金） （祝日）金曜日授業
27日（火） 企画調整会議
29日（木） 人事委員会、SD関連報告会
30日（金） 常任理事会

竜王まるごと「スキヤキ」プロジェクトに参加

ビジネスコミュニケーション学科
准教授　**江見　和明**

10月14日（日）、ビジネスコミュニケーション学科の学生が、アグリパーク竜王で行われたイベントに参加し、お菓子を販売しました。本学は、竜王道の駅かがみの里と提携して活動をしており、このイベントへの参加も昨年に引き続き2回目です。販売したのは、生活学科ベーカリー塾の学生が作ったパンプキン・カップケーキとパンプキン・クッキーで、かぼちゃのやさしい味が大好評でした。学生は、たくさんのお客様に買っていただけるように、宣伝や販売方法に工夫を凝らし、営業終了時には完売することができました。

またビジネスコミュニケーション学科の学生で、「びわ湖大津PR大使」でもある、木下洸希君によるジャグリングショーも、お子さんから大人の方まで多くの方に楽しんでいただけました。今回の参加も、学生にとって素晴らしい貴重な体験になりました。清水正作駅長をはじめ、スタッフの方々、大変お世話になり有難うございました。

KDKファッショングランプリ「KDK会長賞」を受賞して

生活学科
ライフデザインコース2回生
寺井　美月

『生活デザイン演習Ⅰ』の授業で、毎年「KDKファッショングランプリコンテスト」に参加されていると知り、私も挑戦してみようと思いました。今年の創作テーマは「Mili　mili」(ミリミリ：ハワイ語で私の好きなものという意味)でした。テーマに沿ったデザインを考えていくことは、とても楽しかったのですが、いざそのデザインを制作していくとなると、思った以上に難しく、表現したい所が上手くいかず悩むときもありました。先生方のアドバイスや友人の励ましもあり、一つの作品として仕上げることができました。「KDK会長賞」を受賞できたのは、周りの方々のおかげでもあると思います。この経験を通して、一から服を作る楽しさと大変さを改めて実感することができました。今後もこの経験を忘れずに頑張ろうと思います。

ZEZEときめき坂ハロウィンに参加して

生活学科 特任助手
服部　聖羅

10/28（日）に行われた膳所ときめき坂ハロウィンに参加した。膳所駅近辺の商店街が地域活性化を図ろうと開催しているこのイベントは今年で 9 年目を迎え、ベーカリー塾は、4 年前から継続して参加している。

今年度もこのイベントで恒例のかぼちゃドーナツを販売した。フレッシュのかぼちゃを生地に練りこんだドーナツは、優しいかぼちゃの甘味が広がる。クッキーを刺して、かぼちゃの形に成形し、見た目にもこだわった可愛らしいドーナツは、通りがかった人の目を惹きつけた。300 個ほど用意した商品は、イベントが終了する 1 時間前に完売し、大盛況だった。

今回、イベントを通して、たくさんの人と協力し、関わることができた。直接買い手と触れ合える実践的な販売を実現できたことは、学生含む私たち作り手が達成感を持つことができ、次の活力となった。今後も、この貴重な経験ができることに感謝し、学生とともに成長できる活動を行っていきたい。

地域に開かれた乳幼児総合研究所の取り組み

乳幼児総合研究所　所長　**前川　頼子**

乳幼児総合研究所が担う子育て支援の取り組みとして、今年度は、子育て家庭の親子が安心して子育てができる、子育て支援プログラム（預かり保育あり）を開催しました。ここでは学生も保育に参加することにより、子育てを考える機会となりました。

また、今年度も、純美禮祭では「人形劇鑑賞」と、音楽に親しむ企画として学生による民族楽器の演奏と楽器体験「音あそび」を実施しました。子どもから大人まで地域の方々に文化に触れていただくことができました。

ベーカリー塾と㈱百町物語のコラボ企画 in 浜大津菱屋町商店街

幼児教育保育学科講師　**北後　佐知子**

本学生活学科 製菓マイスターコースの学生を中心としたベーカリー塾と大津市長等にある株式会社百町物語とのコラボイベント「ベーカリーカフェ」が今年の6月より毎月1回、菱屋町商店街で開催されています。現在では生活学科 食健康コースによる特製ドリンクや幼児教育保育学科による手あそび・紙芝居、ビジネスコミュニケーション学科によるコンピューター占いなど、各学科の特色を活かした取り組みを行っています。

地域の方をはじめ、乳幼児から大人まで幅広い年齢層の方にご利用頂き、毎回あたたかな交流の場が実現しています。

人事異動

配置換え（平成30年9月1日付）

総務課主事	髙木	則子	（法人本部主事）
学生支援課主事	塩川	綾瀬	（総務課主事）
法人本部主事	市口	真璃子	（学生支援課主事）

退　職（平成30年11月30日付）

入試広報課係長　田中　知恵子

採　用（平成30年11月14日付）

嘱託職員（入試広報課）
三輪　高之

寄付報告

滋賀短期大学に1件のご寄付を賜りました。
ここにご芳名を掲載させていただき、
感謝の意を表します。

株式会社　滋賀銀行　様

株式会社 横井製作所 CSR私募債発行 記念
ロボットクリーナー1台